

「種をまこう」を活用した授業 ～南中学校～

1. ウイルスより怖いもの、という人権作文の感想を紹介します。

コロナ禍の現在と、ハンセン病問題から、誤った情報や知識の無さから生じる人の差別意識について考えた人権作文です。

避けるという「行為」

僕は、「ウイルスより怖いもの」を読みました。この話は岡山市内をドライブしているとき、前を走る車のナンバープレートが「多摩」で、東京からきていることが分かり、差別をしてしまうというお話です。この話を読んで思ったことは、僕にも同じようなことを思ってしまったことがあるなと感じたことです。僕は吉川市に住んでいますが、東京都のナンバープレートを見るとどうしても避けてしまいます。でも今思うと東京都は確かに感染者は多いですが、その人を差別するのは間違っていると考えます。東京から移住してきただけ、そこを通りかかっただけかもしれないと思うと自分がした「行為」がとても情けないです。今とても謝りたい気持ちでいっぱいです。

2つ目は、自分が実際にやられてしまったことです。キャンプにいったときです。車を止めていると周りにいる人たちが避けるように通っていきました。その「行為」をされたときは、とてもとても悲しかったです。そのとき思ったことは、このような「行為」はあってはいけなと感じました。

今回考えたことを忘れずに相手の悲しむ「行為」はもうしません。

2. 「いじめ」は「いじり」という、人権作文の感想を紹介します。

いじめられキャラは決して愛されキャラではない。主人公は実際に周りの人にいじめられ、嫌な思いをして、いじりはいじめと変わらない、と気が付いた・・・という内容の人権作文です。

自覚のないいじめ

私は、「いじめ」と「いじり」を読んで、このようなことが起こっていたら私はどうするのかを考えさせられました。

「いじり」をしている人達は、自分がいじめをしている感覚がないため、いじられている人がはっきりと「やめて」と言わなければずっと続いてしまうと思います。逆に、いじられている人は、周りの楽しい雰囲気自分が壊してしまうことが怖くて、なかなかはっきりと「やめて」と言えずに、ずっと無理をしてしまうと思います。いじられているところを見ている人は、いじられている人が楽しそうにしていたら、大丈夫なんだと思ってしまい、止めることはできないと思います。

私もこのようなことが起こっていた場合、どの立場でも何もできないと思います。ですがこの話を読んで、誰かが勇気を出して行動を起こさなければいじりはずっと続くことを知りました。もし私がいじりといういじめを受けていたら、私は正直「やめて」とは言えないと思います。なので、いじられているところを見ている人がすぐに気づいてあげることが大事だと思います。なのでこれからは、いじめやいじりで苦しんでいる人を見たら、助けてあげようと思いました。

